

古宮 昇 著

『共感的傾聴術』
―精神分析的に“聴く”力を高める―

誠信書房 二〇一四年八月

本書ではまず、フロイトの精神分析理論と、ロジャースのパーソン・センタード理論は基本的に重要な部分に共通点が多いことを、原典をもとに明らかにしました。

さらには、共感について最新の脳科学の見地を取り入れて考察しました。

その上で、九名の来談者とのカウンセリング対話を載せ、来談者の言葉から、彼・彼女のあり方をどう深く共感し、かつ治療的に見立てて、どう応答すればいいのかを、分かりやすく丁寧に解説するよう心がけました。カウンセラー・応答の良い例、悪い例を見せながら、理論をもとに、どのように効果的な実践をおこなえばいいかを、平易な言葉で明示することを心がけました。

ありがたいことに、アマゾンにおいて多くの好意的な

評価をいただいています。書評の一部を抜粋します。

「精神分析の流れを基調としながら、受容とは？共感とは？に十分にこたえてくれる本です。面接場面の一部が逐語の形で具体的に載っているので、自分ならどのように応答するかを考えながら読むこともできて、理解はさらに深まります。まちがいはなくお勧めできる、良書です。」

「素人の私が読んでも解りやすく、語りかけるような感じに書かれているのがとても良かったです。また、難しい内容の横に、わかりやすく解説されていたり、工夫が凝らされていると感じました。心理学を学んでいる人は、もちろんのことですが、子育てや職場でも応用できる内容も書かれており、参考になる事例も多くあります。永久保存し、何度も読み返したいと思います。」

（人間科学部教授）



石田 淳 共著

『社会学入門——社会をモデルでよむ』

朝倉書店 二〇一四年二月

この本は、数理社会学会の仲間と作った社会学の入門書です。数理社会学は、数学モデルを使つて様々な社会現象を説明しようとする、社会学の一分野です。こう聞くとすごく難しそうな感じがしますが、どうかご安心を。この本には数式や数字はほとんど出てきません。その代わりに、できるだけ平易な言葉でモデルを使つた社会学のエッセンスを伝えようとしています。

この本では次のような一三個のモデルが紹介されています。

- 家族 なぜ結婚するのか—人的資本
- コミュニケーション なぜ世間はせまいのか—スモールワールド

- ボランティア なぜボランティアをするのか—協力の進化
- コミュニティ なぜ地域に違いがあるのか—ソーシャル・キャピタル
- 社会心理 なぜ流行が起こるのか—いき値
- 教育 なぜ大学に進学する人とならない人がいるのか—文化資本
- 仕事 なぜ転職に成功する人とならない人がいるのか—弱い紐帯の強さ
- ジェンダー なぜ男女差別があるのか—予言の自己成就
- 社会階層 なぜ不平等を感じるのか—相対的剥奪
- 福祉 なぜ自殺するのか—アノミー
- 犯罪 なぜ犯罪がなくなるのか—ラベリング
- 経済 なぜ資本主義が成立したのか—プロテスタンティズムの倫理
- 環境問題 なぜ環境問題が起こるのか—四人のジレンマ

このように多様な話題、多様なモデルが紹介されて

います。また、それぞれの理論家を紹介したコラムも充実しており、この教科書を通して社会的な考え方のエッセンスを体得することができるでしょう。

ちなみに、私は「犯罪 なぜ犯罪がなくなるのか——ラベリング」を担当しました。犯罪が実は、常識とは異なり、犯罪者自身の特性からではなく犯罪を取り締まる側が生み出しているのではないかと考えるラベリング理論の考え方を紹介しています。

（人間科学部准教授）



石田 淳 著

『相対的剥奪の社会学』

——不平等と意識のパラドックス——

東京大学出版会 二〇一五年一月

本書は、私が研究代表者を務めた二〇一一～二〇一三年度科学研究費補助金研究「グローバル化・ゼーション下の不平等社会における相対的剥奪——理論・実証的研究の刷新」(JSPS 科研費23330171 基盤(B)) における研究成果の一部をまとめたものです。出版社には次のような内容紹介を考えていただきました。

他人と自分を比較して不満や欠乏の気持ちを抱く。これが「相対的剥奪」である。すでに社会学において基本的な概念として名高いこの理論を、最先端の数理モデルや指数を用いて現代に蘇らせる。平等化、経済発展、幸福の追求という現代社会の課題に迫る新しいアプローチ。

また、目次は以下の通りです。

第一章	本書の目的
第一部	相対的剥奪指数の導入
第二章	相対的剥奪概念の発見と展開
第三章	ジニ係数と相対的剥奪指数
第二部	相対的剥奪の歴史社会学
第四章	平等化と相対的剥奪のパラドックス
第五章	経済成長と相対的剥奪のパラドックス
第三部	相対的剥奪の計量社会学
第六章	相対的剥奪と準拠集団の計量モデル
第七章	所得分布イメージ上の相対的剥奪
第八章	機会不平等に起因する相対的剥奪の測定
付 録	微分・積分の基礎

本書は、微分・積分、多変量解析を道具として、相対的剥奪という古典的な理論を再構築しようという内容で、読み通すのは少し難しいかもしれませんが。ただし、付録に最低限の微分・積分の基礎を紹介し、また数式展開もできるだけギャップなく丁寧に書いたつもりで

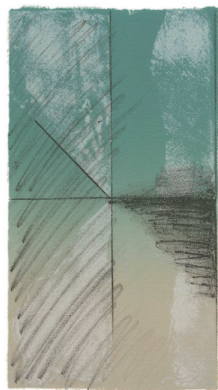
すので、やる気と向学心さえあれば学部生のみなさんでも十分通読できるのではないかと期待します。学術的な内容ですが、ぜひチャレンジしてみたいかがでしうか？

（人間科学部准教授）

相対的剝奪の社会学

不平等と意識のパラドックス

石田 淳—[著]



東京大学出版会